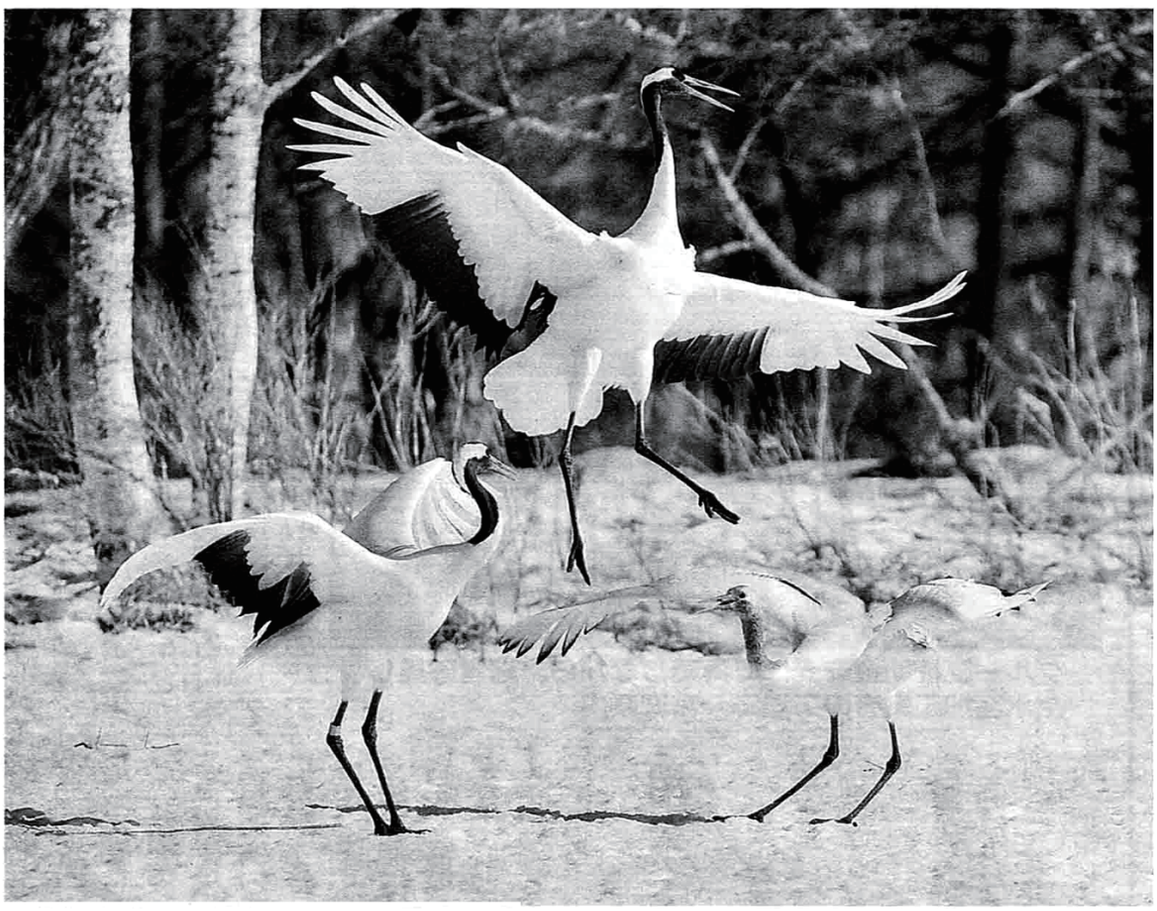
北海道新聞
2021年（令和3年）2月19日（金曜日）



「求愛ダンス」をみせるタンチョウのつがいと、親鳥の動作をまねる幼鳥（右下）
＝17日午後0時20分

鶴居 タンチョウ求愛の季節

幼鳥も初恋の舞？

【鶴居】国の特別天然記念物タンチョウのつがいが、互いに羽を広げ合う「求愛ダンス」の季節を迎えている。国の給餌場の一つ、釧路管内鶴居村の「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」では、昨年生まれた幼鳥が親鳥の行動をまねて羽を広げる愛らしい姿もみられる。

タンチョウのつがいは夏の間、釧路湿原などで幼鳥を育て、越冬期は親子で給餌場に集まる。餌をついばむ合間に、親鳥の1羽が大きく羽を広げて飛び上がると、もう1羽も息を合わせるように舞い、つられて幼鳥も動きだす。

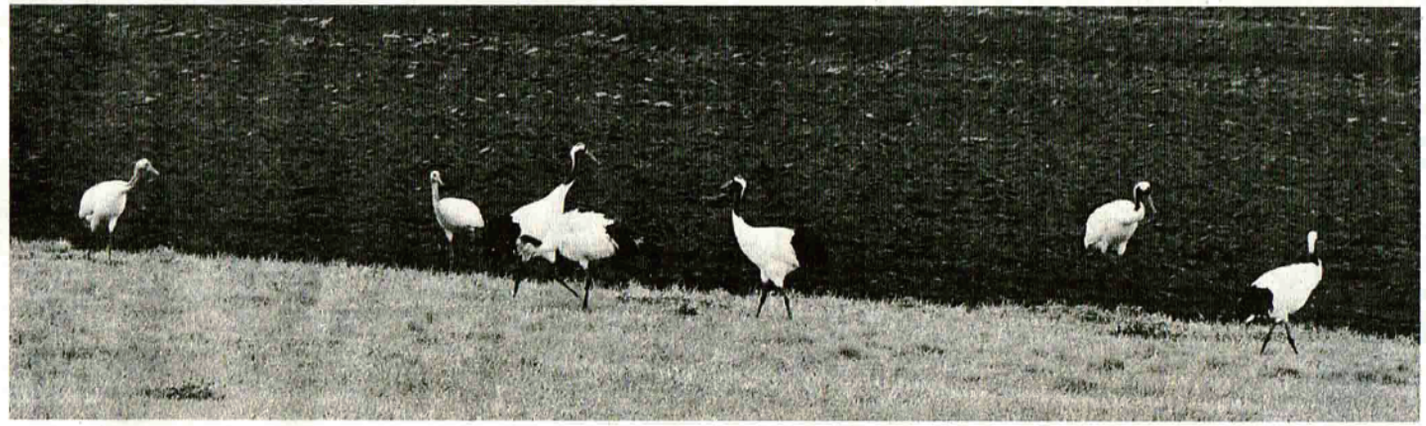
求愛ダンスのピークは今月中旬から3月上旬。つがいは同中旬ごろ、次の命を育てるため、幼鳥を置いて湿原へ移動する。幼鳥にとって、親との別れの時が近づきつつある。（小松巧、写真も）

※カラー版は釧路市タンチョウ鶴愛護会ホームページにて掲載しております

北海道新聞
2021年（令和3年）2月22日（月曜日）

千歳でもタンチョウ繁殖？

長沼の3羽一家、謎の4羽一家とツルむ



タンチョウ2家族の合流シーン。右から2羽が舞鶴遊水地のつがいでその幼鳥は同4羽目とみられる。謎の4羽一家の父親「318」は左から3羽目。左から2羽は幼鳥＝2020年10月31日、長沼町と千歳市の境界付近、近藤いづみさん撮影

【長沼、千歳】空知管内長沼町と千歳市の境界付近で昨秋撮影された国の特別天然記念物タンチョウの写真が、研究者らの間で話題になっている。写っているのは幼鳥1羽を連れたつがいと、幼鳥が2羽いるつがいの2家族計7羽。3羽一家は、昨年5月に長沼で繁殖が確認され「札幌圏で100年以上ぶりに繁殖」と報道された一家だが、残る4羽一家は千歳側で繁殖したとの推測も出ている。（土屋孝浩）

撮影者は札幌市在住のアマチュア写真家近藤いづみさん(61)。昨年10月31日午前8時ごろ、長沼と千歳の境界付近の大学排水（旧長都沼）に近い大豆収穫後とみられる畑で、タンチョウの3羽一家を見つけて撮影を開始した。

「気付いたら7羽に増えていた」といい、2家族が合流していたのは10分間ほど。先に3羽一家の両親が飛び去り、幼鳥が遅れて追いかけた。あとに4羽一家が残った。

長沼町内の「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」メンバーらによると、残った4羽一家の親の1羽は足輪「318」を付けたオスで、数年前から周辺で確認されていた。舞鶴遊水地から約5キロ南には千歳市内の根志越遊水地があり、写真撮影地は両遊水地のちょうど中間地点に位置する。

タンチョウは湿原や湖沼の周辺などで営巣する。舞鶴遊水地でタンチョウを調査する専修道短大の正富宏之名誉教授（鳥類生態学）は「『318』は、一昨年から根志越遊水地を利用していた。証拠はないが、昨秋の発見以降の行動からも根志越遊水地で営巣したのではないかと思う。（ツルは千年生きるとの）市名の由来通り千歳に戻ってきたのでは」と話す。

正富さんの読み通りであれば、昨春は札幌圏の2カ所でタンチョウが繁殖していたことになり、幼鳥は計3羽育ったことになる。冬期間は両家族とも一帯から姿を消しているが、研究者らは繁殖期の春以降の行動に注目している。

父親に足輪 周辺で営巣か